Education magazine（尾花沢市教育委員会通信）

輝け！おばねっ子

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

第３０号

令和５年９月20日

「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介②

県少年の主張大会（尾花沢大石田地区）に出場した、尾花沢中学校３年の**尾﨑ありさ**さんの、主張内容を紹介します。

■「母を見て」

クッシング病。それが母の病名です。国の指定難病で、患者数は約 500 人。症例も少ないこの病気で、私の母は少しずつ弱っています。

始まりは２年前でした。母が整形外科でもらった痛み止めを飲んだ途端、心臓が苦しくなり、急遽受診。そこからは、あれよあれよという間に大きい病院を紹介され、先日は新潟の病院へ。病名はわかったものの、母の症例はその中でも珍しいらしく、2年経った今も検査は続いています。

病名が分かって、少しずつこれまでとは違う母に気付くようになりました。中心型肥満といい、手足は細いままなのに体は肥満に近づいていきました。さらに、ところどころ痣が増えたり、力がなくなりすぐ「くたびった」と言ったりするようになりました。感情のコントロールができなくなるのもこの病の特徴です。勉強しておらず遊んでいる妹に対して突然怒鳴ることもありました。妹が勉強しないなんていつものことなのに。

それでも、元は活発で行動的な母。仕事もこれまで通りこなし、家庭でも明るくふるまい家事にも抜けはありません。母の場合、即座に死につながる状態でもなく、母自身もけっして難病を抱える人には見えません。ですから、私も家の手伝いは配膳や自分のものの洗濯をする程度で、母のことはあまり気にかけていませんでした。

ある夜のことです。その日もいつも通り、１日を終えそろそろ寝ようと自分の布団に向かいました。するとそこには私の布団に大の字になって眠る母がいました。

「お母さーん、がんばれー。私も寝たいからー。」そう言って揺さぶっても、母は「うーん」とあいまいに答えるばかり。ようやく起きて私が寝ることができたのは、それから約１時間のことでした。後々そのことを先生に話すと、先生はふと言いました。

「それってさ、要は普段からそのくらい気を張っているってことじゃないの？」

私はやっと気づきました。母は、私たちが思っている以上に疲れ切っていたのです。それでも、私たちが心配しないように、困らないように、毎日毎日隠し続けていたのです。初めて自分の行動を後悔しました。「そんなに大変だなんて思いもしなかった。」「ああ、もっと手伝わなきゃいけなかったな。」そして決意しました。もっと、相手のことを理解できる人になろうと。今、目の前にいる人が、実はこの瞬間も何かに苦しんでいるかもしれない。その「何か」に気付ける人になろう。相手の痛みに気付き、寄り添い、支えられる大人になろう。私の人生の目標が決まった瞬間でした。

私は今、医師になりたいと考えています。１学期には「医師は無理だ、でも医療機関なら」と諦めたこともありました。でも、これからこの目標を変えることはありません。人知れず苦しい中でも黙って家庭を支えている母に、そして誰にも言えず苦しい思いをしている誰かに寄り添い、「大丈夫？私がいるからね。」そう言える大人になりたいと、今心から思っています。

そのために、私は今勉強を頑張っています。私は英語が一番苦手です。しかし、医師になるには英語で書かれた論文を読めるようにならなくてはならない、そう聞きました。けっして楽な道ではありませんが、苦手なことでもやり遂げる意志を持ち精一杯生きていこうと思います。

最後にお願いです。今あなたの身の回りにいる人が「少し変わったな」と思うことはありませんか。もしあるなら、そのままにしないでください。「大丈夫？」「つらくない？」そう声をかけてください。本当に困っている人を見逃さずに寄り添いあえる、真に「温かい世界」になってほしいと、私は強く思います。

※掲載内容については、本人・保護者の方の同意を得ています。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長　工　藤　雅　史
ＴＥＬ　２３－３３３０